

第2回 まちづくり常任委員会会議録

令和8年2月17日(火)
委員会 議室

○会議日程

- 1 開会宣告(10時00分)
- 2 調査事項
(1) 大型建設事業に係る町執行部の考えについて
- 3 その他
- 4 閉会宣告(11時17分)

○出席委員(8名)

委員長	4番	高橋秀之
副委員長	1番	高橋秀明
委員	2番	佐藤忠志
委員	3番	深澤博之
委員	5番	植村敦隆
委員	6番	無量谷隆孝
委員	7番	斎賀弘裕
委員	8番	西澤裕之

○出席説明員

町長	野々村仁
副町長	岩川実樹
教育長	伊藤一男
総務企画課長	早坂敦
総務企画課参事	山本基継
教育次長	古草勝
総務企画課長補佐	梶淳

○議会事務局出席者

事務局長	岡田英樹
------	------

高橋秀之委員長

本日の出席委員は8名です。

定足数に達しておりますので、ただいまより、第2回まちづくり常任委員会を開会します。

始めに、町長より御挨拶をお願いします。

野々村町長

おはようございます。

第2回のまちづくり常任委員会、この件に関しまして、今日、今までも懸案事項でございました大型建設事業に関わる町執行部の考え方について御説明をしようということでお集まりをいただきました。

説明後、それぞれ議員の皆様方から忌たんのない御意見等頂ければ幸いですので、よろしく願いを申し上げます。

高橋秀之委員長

ありがとうございました。

それでは調査事項に入ります。

調査事項（1）「大型建設事業に係る町執行部の考え方について」の説明をお願いします。

野々村町長

それでは私の方から、この案件について最初に前段御説明をさせていただきます。

1月16日のまちづくり常任委員会での説明をさせていただきました大型建設2事業の現計画どおりの実施した場合の財政シミュレーション結果とその説明後、委員皆様から頂いた意見等も踏まえて、町執行部内で協議検討を経て、本日ここに執行部としての大型建設事業、すなわち幌延中学校区小中一貫校整備事業と多世代交流施設整備事業に係る今後の方針、考え方を説明いたしたいと思います。

前段、財政見通しの詳細につきましては、前回の委員会にて御説明のとおりでありますので、今回は省略をさせていただきますが、町の今後の財政運営を推計したとき、歳入、特に固定資産税を主とする税収や電源立地地域対策交付金を主とする国庫支出金の見通しが不確定な状況の中、大型2事業を同時並行的に推進し、前年度又は今年度のような60億前後の財政規模を継続する場合には、4年後には基金が底をつき、単年度収支のバランスが取れなくなるという見通しとなり、財政的リスクが相当大きいとの判断に至りました。

したがって、町としては、まず、一つの大型建設事業について事業内容を精査し、事業費を圧縮した上で施行し、二つ目の事業については、不確定要素が見通せた時点で事業内容規模等を含め実施する、しないの判断をしていきたいと考えております。

なお、優先して執行実施する事業は先行として、住民等への合意形成やステークホルダーとしての具体的調整を取り進め、既に実施設計の詰めの段階にある幌延中学校区小中一貫整備事業とし、今後の財政状況を見定めた上で実施、可否を判断する事業は、まだ基本設計段階にある多世代交流施設整備事業としたいと考えております。

以上、大型2事業に対する町執行部としての考え方を申し上げましたが、委員の皆様

は、本方針内容について御理解を願いますとともに、忌たんのない御意見を頂戴いたしたく、よろしくお願いを申し上げます。

古草教育次長

それでは、お手元の配付資料に基づきまして御説明をさせていただきます。

まず、幌延中学校区小中一貫校建設事業の圧縮内容、変更内容について御説明いたします。

まず、当初基本計画、それから実施設計の方で予定しておりました増築棟メディアライブラリーにつきましては、規模の縮小、大きさを縮小するということを考えております。

それから屋内体育館につきましては、当初予定していた屋内体育館にはステージ等がございませんでしたので、当初武道場に設置しようとしていたステージを体育館へ移設することによって検討いたしました。

それから武道場、それから給食センターの新築については取りやめという形で事業内容を圧縮しております。

概算事業費の説明ですが、別紙1を御覧ください。

基本設計時の概算事業費につきましては、56億8,829万8千円ということで先にお示ししております。

この項目に合わせるように今回、資料の方作っておりますけども、まず先にR7設計変更後Cのところを見ていただきたいんですが、今回の概算工事費につきましては、総額で58億3,380万6千円ということで、当初の基本設計と比べますと、1億4,500万ほど上がる内容となっております。

また、実施設計、そのまま武道場ですとか給食センターも含めて実施していたと推計すると、あくまでも推計です。こちらについては実際に設計、積算をしておりますので推計値にはなりますが、77億978万5千円程度になってあったであろうということで推計をしております。

これにつきましては今回、設計変更で見直した後の工事費の平米単価ですとか、そういったものを使いながら推計した値になっております。

次に、規模縮小後のレイアウトなんですが、平面図につきましては別紙2から別紙7の方に付いておりますが、まず別紙2の配置図につきましては当初のレイアウトそんなに大きく変わっておりませんけども、屋内運動場の横にあった武道場と給食センター新築を取りやめ既存の給食センターを使うこととしております。

また、校舎右側にありました増築棟につきましては、大きさをかなり縮小しております。

また、屋上に設置しようとしていた太陽光パネルにつきましては校舎の南側の方に野立てで建築するという形の配置になっております。

別紙3につきましては、校舎1階の図面ですけども、図面の左側、屋内運動場につきましては必要な面積プラス、ステージをこちらに持ってくると。更に校舎側の増築等に予定しておりました電気室ですとか機械室につきましては、効率を考えて体育館側の方に持ってきております。このため屋内体育館については当初の予定よりも600平米ほど増えております。

それから図面右上の方、メディアライブラリーですが、当初のレイアウトをそのままコ

コンパクトにしたような形にしておりまして、予定していました児童クラブ等も入るようなスペースを確保しております。

こちらについては幅等を縮小した関係で、全体で433平米ほど規模が縮小されております。

また、新築しようとしていた武道場、それから給食センターはそれぞれ1,080平米、647平米を減築することにいたしまして、全体で1,552平米を減らしております。

また、校舎の改築棟につきましては、当初の予定どおりの内容となっておりますが、一部、真ん中辺にありますワークスペース1（プレイルーム）と書いてますが、こちらにつきましては当初中庭の方には造作はなかったんですけども、武道場をやめた結果、子供たちの体を動かせるスペースというのが減りましたので、こちらの方を少し中庭の方に張り出して増築する形で新たに造るということを計画しております。

別紙4の2階につきましては1階と同じ総2階という形になっております。また、屋内体育館については、2階を周回できるランニングコース、これについても残してあります。

次に別紙5ですが、屋上の方になりますけども、当初、屋上に予定しておりました太陽光パネル下ろしましたが、増築棟の方に若干グレーで網が掛かったようになってる部分、こちらについてはエアコン等の室外機が置かざるイメージとなっております。

別紙6、7につきましては、建物の外観立面図になっておりますけども、若干コンパクトにした関係で屋上のハイサイドライト、角のように生えてるような部分ですけど、そちらのレイアウトが若干変わっております。

規模縮小後のレイアウトについては以上でございます。

次に事業スケジュールの変更ですけども、別紙8を御覧ください。

別紙8につきましては基礎工事等々の実施時期等も考えて、更に内容を精査したものとなっております。

まず、実施設計業務ですとか監督員支援業務につきましては令和9年1月末までの予定としております。

また、その後、仮校舎の中学校の改修工事ということで1番下の段になりますけども、令和8年10月から令和9年7月の着工予定というふうに考えております。

また、今回小学校を壊して給食センターを残すんですが、給食センターの電源につきましては現在小学校のキュービクルから引っ張っている形になりますので、電源の切替え工事をしないと給食センターそのまま使えないということがございますので、そちらの電源の切替えを令和9年5月から令和9年8月頃まで作業いたしまして、給食センターをそのまま残しつつ、校舎の方の解体に進むという形で考えております。

屋内体育館ですとか増築棟解体ですとか建築工事につきましては令和9年11月から令和11年7月までの21か月の工期で現在進めております。これにつきましては、当初はもう少し早い段階から着手の予定だったんですが、基礎工事が冬場にかかってしまうということがありまして、その養生、採暖経費等々を考えますと少し後ろ倒しにした方が基礎に係るお金が浮くということで若干ずらしております。その結果、当初、令和11年5月頃には完成の予定だったんですが、若干夏休み手前ぐらいまで工事がかかる予定となっております。

また、外構工事ですけれども、グラウンド整備ですとか駐車場の整備等につきましては、令和10年7月頃から着工し、令和11年9月に完成の予定ということで考えております。

また、スケジュールに伴いまして議会对応の方なんですけれども、まず中学校の改修工事を令和8年から始めるに当たりまして、工事費の積算が当初の6月の補正では間に合わないということが想定されますので、7月早い段階で臨時会を開いていただいて、中学校改修工事の予算の補正の方をお願いしたいと考えております。

その後、9月定例会におきまして中学校改修の本契約を締結して着工という形に行きたいと思っております。

また、令和9年3月の定例会では小中一貫校の建設工事の予算を当初予算で計上いたしまして、業者選定後、仮契約を結びまして、令和9年9月の定例会で本工事の本契約の方を締結する見込みとしております。

また、外構工事につきましては令和10年6月の定例会で本契約を締結できるように検討をしております。

現状が建設事業の変更プランの内容となります。以上です。

高橋秀之委員長

これより質疑を行います。

質問のある方は挙手の上、指名を受けてからマイクのスイッチを押してから発言してください。

それでは、ただいまの説明について、何か質問ありませんか。

無量谷委員

今武道場を完全に無くすっていうことでなんですけど、武道場の機能というか舞台は一応体育館の方に移るんですけれども、武道場の柔道の畳の部分なんですけれども、畳はこれ体育館費にひきっぱなしっていうスペースじゃなくて、その都度、引いたりということでやるのか、その辺確認したいんですけど。

古草教育次長

お見込みのとおりひきっ放しのスペースございませんので、その都度畳を出して敷いて授業に使うということで検討しております。以上です。

無量谷委員

今生徒がかなり少ない人数で畳をひくということは大変重労働でないかなという感じはするんですけれども、これ体育館の2階辺りに柔道場の畳スペースっていうものは設けられないのかなという感じがするんですけど、ステージの上辺りの2階部分っていうか、そういう活用はできないのか、その辺確認したいんですけど。

古草教育次長

建設コスト削減のため、体育館の2階につきましてはランニングコース、それから若干の休憩スペース等しか取れるスペースがないというふうに考えております。

確かに電気室の上ですとか機械室の方まで広げればスペースは確保できますが、その分建設費も更に上がるということもありますので、なるべくコンパクトにという形で考えております。以上です。

無量谷委員

ステージが広くなるのか、その辺あれなんですけれども、今まで視察したり何だかんだ聞いた中では、学校祭とかなんかやる時には小道具とか大道具とかっていう（聴取不能）的なものが学級生徒によってあるんですけれども、これは今までどおり教室なり廊下なりから引き出して設置するのか。視察した中においてはステージの裏側に倉庫みたいな形で催物の小道具、大道具を収納するというようなスペースがあるんですけれども、それらに対しても縮小してしないってことなの。

古草教育次長

ステージの使い方につきましては、ステージの横、器材庫1，2とございますけども、こちらについてはそういった演劇等の大道具等々を保管できるスペースとなっておりますし、ステージの裏側にも通路になってますけども、そちらにも大型のセット等を置くことは可能というふうに考えております。以上です。

高橋秀之委員長

ほかにありませんか。

植村委員

まず、今回のこの対応ちゅうのは、非常に、この時期に来てこういう結果が出たからってということで、非常にずさんな進め方だったなというふうに、冒頭、私は感じたことをを言わせてもらいます。

いかにこの物価、資材高騰ということがあっても、やっぱりこの試算ちゅうのが一番最初にやっぱりやって進めていかなければならない事業ということは当然なことだと思っはいるんですけど、そのために、私もかなり以前から財政シミュレーションどうなってるんだっていう話をしてきたつもりです。

本当にここまで進んだ事業の中で、今この段階で変更、見直しというのが、本当にちょっと判断が遅かったんじゃないかなと私は思っています。

実際、シミュレーションしてみて、結果、本当にここまで財政が厳しくなるという予測は私も全然してませんでした。それなりの基金等々もあるんで、何とか乗り切れるのかなという若干淡い希望的観測は持ってたんですけども、実際これだけの状態になってしまうという事態、予想外だったなと私は思います。

ただ、問題は、ここまでいろんな場面で町民と関わって進めてきて、大きな希望を持たせたり、いろんな議論をやったりということで進めてきた事業、やっぱりここまで大きく変更させるということに関して、やはりそれなりの責任というのはあるんじゃないかなというふうに私は思います。

特に交流施設に関して、やはり公衆浴場に関しては、今現状使われてる施設が一部はもう耐用年数が過ぎて耐震化もされてないというような状況、風呂自体ももう寿命が来てるという状況、それが目途たった時点で再度計画するという今、先ほどの町長の話というのは、それで果たしていいのかなと。私は逆に言えば、そっちの方が優先順位が先でなかったのかなっていう気がしてるんですけども、その辺、改めて町長に考え方、お聞きします。

野々村町長

お話自体では本当に責任を感じているところでもございます。

ただ、この物価高騰の中で、ここほど上がるということ自体はどの誰かが余り知られていなかったということで、設計もある程度どういう枠組みでどういう形をとって積算をしていっていったところに入らないと金額が本来出なかったということもあるのかと思ってます。私ども聞かされた時点では、この時点であったということだったんですけども、やっぱりそこは確定、今でもそう確定的ではなくて、まだ積算にはなっていない、積み重ねの数字ではないという概算、平米当たり、全体的に全道的にある平米単価で積算をされてるものだというお話で聞いてもございますから、やはり、その急変の中で、それぞれ対応が遅かったということ自体は否めませんが、それぞれ、はっきりした時点が、やっぱりそのぐらい物価高騰の中で急速に上がってきた中であつたと言い訳にしかならないですけども、やっぱりその部分がしっかり見えてきたときに、どういう形でやれるかということ自体では、前段、最初に見積もったこの学校の関係、また、こちらの多世代交流の関係の概算足しても、全体的にこの学校の総枠の話が出てきたときには、その中で収まるぐらいの二つ足しても収まるぐらいの予算であつたということで、その部分としては全体的に見ても、やっぱり読み浅かったというよりも周りで使っていく、全体、毎年、毎年使っていく、それこそ補正をしながらでも事業を進めてきた中でも、やっぱり蓄えを切り詰めていってはいたんですけども、切り取りしながら、積立てを食いながら事業を展開してきたという部分のロスもこの数年の中で起きているというところを考えると、やはりこのままで行くこと自体はやっぱり大変なことになると、リスクを大きく背負うことになるということで、そこは断罪をするしかなかったということでもあり、そこは遅過ぎたというふうにお叱りを受ければ遅過ぎたのかも分かりませんが、このような状況下で予測はなかなかつかない。建設費自体が1.5なんていうのは、今までの中でも、なかなかここほど上がった年はなかったということで、甘いと言われれば甘かったって言う反省もしなければなりませんけども、まずは立ち止まって後ろ振り返り向きたくはないんですけども、振り返り向くことも、やっぱり持続可能な町として健全にやっていくための英断をしなければならないことだということで早急にこういう、なたを振ったというところもあるかと思っております。

ただ、これがまだ完璧なものではなくて、ここから今、1年後に始まる事業費が安定してやっていかれる、そういう積み重ねの今度は積算の費用がどのくらいアップを振ってくるのかっていうのも先が見えてないので、言い方はそれぞれ取り方がありますが、こういう動きの流れもしっかり見てから、やっぱり次の段階に入るのがベストでもあるし、それぞれ我々の運営の中でも、それぞれ収入減、財源のやっぱり不確定的要素が多々あるということも含めたら、そこの辺を一旦、片方押しとどまりながら進めて、着実にこの財政を円滑に動かしていければいいかなという気がしています。

ただ、風呂の関係は本当に言われるとおりで、もう本当に壊れる寸前のところで、今まで我慢をしてきましたけども、こういう結果でちょっと様子を見なきゃいけないということになると、そちらの方にもフォローして、きちんと支障のない、皆さんに迷惑のかけないような状態で運営をしていかなきゃなんないということだけの責務は負ってるということは重々、覚悟の上でお話をしているつもりでもあります。

ただ、やっぱりそこは、よいしょと一気にこの大事業を乗り越すことはなかなか難しい

かなということ自体の判断から、こういうことにさせていただきました。

後ほど、皆さんに資料も配りましたその財政シミュレーションの見方的にも、本当にこれは固く固く絞った財政シミュレーションで、それ以上、もうそれ以下もなく、それぞれ我々が取引をやっている収入と支出、それから借金と払出しという名目の部分のシミュレーションでございます。弾力的に、どっかで努力を、今までもそうですけども、どっかで努力をするなり、それぞれ運用の仕方を協議しながら、事業幅をどのぐらいにしていくかということもコンパクトにやっていく、今後の状況下によってはあり得る話でもありますから、そういうことがまだ決まらないうちに、この二つの荷物背負うこと自体はやっぱりちょっと、1回は立ち止まるということの必要性はあるのかなという気はしてます。

ただ、諦めたわけでも何でもなく、ここからどのような形で皆さんに、それぞれ御協議をいただきながら、学校もそうですけども多世代も遅れること自体もきちんと説明をしながら、皆さんに御迷惑をかける部分はきちんと説明をしながら、やっぱり進めていかなければならないということだけは重々覚悟しているところでもございます。

植村委員

非常に疑問視してるのは、この一貫校の建設費等々も、今の段階での概算の数字だということ強調して町長言われてるんですけども、正直言って今の状況、今後の経済推移からいっても、この出してる予算額が下回っていくということの状況には現状はないんじゃないのかなと。更に何割かは、これで実際に発注する時点では何割か上がらざるを得なくなるのかなというようなことも予想をしてるんですけども、果たしてこの数字どおりの形の中で今後、進めれるのかなと、そういう私は懸念を持ってるんですね。

というのは、副町長、最初のこの事業を進めるときに当たって、今現状の小学校、中学校を改修工事するとなると10億以上の改修工事が掛かりますよと。そして一貫していくと20億から30億ぐらいでできますよという話から始まったんだよね。

それぐらいなら将来の夢を持ってやるんならいい一つの投資になるかと、町の子供たちのためにもいいことだなという、やろうかなというような、議会も皆もそういう気持ちで向かったというのがスタートの時点だったと思う。ところがそれから本当に極端に資材物価高が始まって、近隣で同じような計画立ててる小中一貫校も規模小さくても50億、40億だというっていう話が出てきた。おいおい、うちの町でやるとなったらやっぱりそれ掛かるんじゃないのか。そこら辺から非常に疑問が出てきたっていうのは実態なんだよね。

どんなことになるのっていう話、何ぼかかるのっていう話になってきたんだわ。いや何ぼ掛かっても50億から70億までならんべやっていう話だった。ところが実際に基本設計終わって開けてみた予算額がここに書いてるとおりの数字になってきた。これはちょっとやばいよなと。先に進むのか立ち止まってよく考えてみるのか、やっぱり思案すべきでないのかなと思ったのは、私はその時点だったんです。

ところがどんどんと、補助金の関係もあるんでね、その手続もやらなきゃならない、町民、関係者にも説明せんきゃならんという作業があって進んできた。いよいよになって、町民のみんなも半信半疑だったかもしれんけども、やっぱりやるんだとよという話で、やっと皆さん何ぼか落ちついたかなっていうときにこそ、この話っていうのは非常にやっぱりまずかったなというふうに感じております。

特にやっぱり、交流施設に関しては子供たちまで期待してる中、ああいうこども議会でも発言してたように、非常にやっぱり若い人たちも含めて期待をした。ましてや町長就任以来、本町での大きな事業の本当の最初の一つになるなっていうことで、私も期待したんですよ。ところが、それを諦めて一貫校でやってくということっていうのは、やっぱり非常に残念でならないし、この数字も本当にここで収まるのかな。1番先に出てくる小中学校の中学校の改修費2億何ぼっていう数字があるんですけども、本当にこれで改修できるのっていう、そこら辺の疑問、懸念もあるんだよね。

この間の臨時議会の後の常任委員会で言ったのは、本来ならばこの小・中学校っちゅうのはもう1回きちっと整理して、それこそ財政が整うまで、これを休んで交流施設をやっ
て欲しかったなという、これには議員の中からも異論あると思うんですけども、私はそういうふうに思ってたんです。

やっぱり、野々村町政の一つのやっぱり成果として町民に示してもらいたかったなというふうに私は思ってそういう発言を前回はしたつもりです。

担当者に聞きたいんですけども、この交流施設、最初は道の駅から始まったこの事業ですけども、何年掛かってどのぐらいのここまででの経費、町費をつぎ込んできたのか、概算でいいかちょっと教えてください。

山本総務企画課参事

ちょっと経費については定かではないんですけども、確か構想から始まっての平成27とか28からなので、10年ぐらい掛かって構想ですね。本格的に委託業務に出したのは基本設計からかな。構想も出してますね。構想も商工観光の計画と一緒に出した、そんな形で今まで進めてはきています。

植村委員

実際、経費という話では、それこそ協議会っていうかね検討委員会みたいの作って、議会も議会として道の駅の視察したとか何だとかということで、あちこち旅費を掛けて視察したし、委員の人たちも恐らく行ってきてると思うし、それなりの構想っちゅうのがシミュレーションっちゅうか、そういったものを作るのに当たってはやっぱりかなり苦勞して、ここまでしてきたんじゃないかなと思うんですよ。

1番の先ほども町長も言ってたけども、1番の問題は今の現状の風呂はいつまで持たせるのと、もう寿命だよということから始まって、どうせやるんなら、そういった施設を絡めて、夢を膨らまして、町民にもそういった希望を持つような施設にしようじゃないかということで、何回も頭をひねりながら、先般のこの構想に至ってるんじゃないかなと思うんだわ。

だから、そこら辺を考えると、簡単やめていいのかなと。町民たちそれで納得するのかなあっていうね、本当に残念な気持ちですよ。

これ、前回の委員会のときも出たんですけども、この風呂だけの改修、ボイラーの改修等々も含めたら、どれぐらいの予算が必要なのか、ちょっと分かれば教えてもらいたいんだけど。出してやったことない。風呂だけ。ボイラーも含めて。

山本総務企画課参事

風呂の新築ということで今まで進んできてますので、現状っていうのは調べてはいない

んですよ。

ただ、保健福祉課から聞くと、ボイラーの配管ですとか直さなければいけないのでって話は何千万単位だと思うんですけども、そういう話は聞いてます。以上です。

植村委員

そうしたら、風呂を維持するためにはボイラー等々の配管等々の改修を数千万掛けてやれば何とか風呂は維持できるという考え方でいいんですか。

山本総務企画課参事

あのお風呂自体、平成14年、16年ぐらいに増改築はしてるんですよ。

それからボイラーの設備の法定耐用年数がもうかなり過ぎてますので、その辺も全部含めて改修しないとならないのかなっていう気は、実際調べてはいませんが、1回きちんと調査っていうか調べて検討しなければならないのかなと思っております。

まだ保健福祉課の方には伝えていませんけれども、ここまで構想、計画作ってきた中でこういうふうにやってますんでってことは、きちんと引き継いでこれからやっていかなきゃならないのかなとは考えてます。以上です。

植村委員

分かりました。

心配するのは、こういう形で町長が言ったような形で進めていって、ある日突然ボイラー壊れた、配管破れた、どうのこうのって長期休業しなきゃならないという形にならないような、やっぱりそういったことにならないような方法で進めていくしかないのかなというふうに感じます。

今話聞いてると、どうも非常に不安な話が大きいんで、いかにその辺をきちっと町民の人たちに説明をして納得をして一致団結して、やっぱりこの小中一貫校の事業、今このシミュレーションで出てるこの事業を進めて行けるかっていうところにかかってきたのかなというふうに思うんですけども、財政的な出てるシミュレーション、これっちゃうのはさっき堅く見てという話をしてたけども、最悪の事態を想定したこのシミュレーションなのか、希望的観測も含めた中でのシミュレーションなのか、もう1回聞きます。

岩川副町長

このシミュレーションについては私作成しておりますので、私の方からお答えさせていただきます。

これについては、前回もお話ししたとおり、最悪のケース、研究が続かないといったケースを想定しております。ですので、収入にして2億強減収になってるんです、毎年ね。

ですが、そこが無くなるということになれば、毎年2億という財源が出てくるので、先ほど町長も言われましたとおり諦めたわけではないので、取りあえずリスクを想定したときには、今の時点で走ってしまうと最悪のケースになった場合にもう取り返しがつかないので、一旦立ち止まりたいと言ってるんです。そこの見通しが得られた段階で多世代交流についてはどうするのかということ判断してもいいんじゃないのかなと。今判断するには余りにもリスクが大き過ぎるので、ちょっと凍結したいなというのは今回のお話ですので、植村委員のお気持ちも十分分かりますし、町長も我々も今まで進めてきたこともありますんで、簡単には諦めたくはありませんけれども、どうしてもこの今の財政状況をこの

まま進めて行くとなると非常に危険だなというのがありますし、もう一つ言えるのは、ここ数年、予算規模が60億規模まで増えてきていますけども、こういった財政運営をしていたら大型事業をやろうとやらないと、早晩、うちの財政ってのは非常に危うくなってきますので、やはり40億、45億の予算規模で運営していかないと、この先やっぱり持続可能なまちづくりってのは非常に厳しくなってくるなということが見えてきました。

そういうことですので、ちょっと令和10年ぐらいまでは、少し一旦立ち止まる必要があるのかなというのが、この財政シミュレーションで得られた結果です。

大変早くからやっとならばよかったのにとというお話も甘んじてお受けいたします。

非常に想定外の事業費の増嵩もあり、また、最悪のケースを想定しなければならない時期にもなってきました。もちろんそうしたくはないですけども、万が一ということもありますので、それをちょっと考慮に入れないで、このまま突き進むっていうのは非常に危ういなと感じているところです。

高橋秀之委員長

ほかの人、ありませんか。

深澤委員

今回の件に関しては、私あんまり質問する予定はなかったんだけど、今の植村委員の話を聞いてると、確かに同様だなっていう考え方を私も思ってます。

小中一貫に関しては時間をかけてね、町民や委員会から学校の先生から議会から、全ての意見を聴取してね、組入れた中で当初の事業計画中でできたんだけど、町長の言ってる物価高騰があって、その言葉一つで足りないんだよね。

予算がオーバーしたから、物価が上がったから経費削減して今50億までを落としたと。ただ、今まで聞いてきた要望や意見はどのように反映されていくんですか。

削ったからといって使用する児童たちの不利益、それをどう対応していくのか。武道場もカットしてね、カットした後どうするのか。

給食センター、これもね、当時の最大限の児童数で造った施設だと思うんだよね。ここを年々児童数が最低まで落ち込んでね、同じ広間でいいのか。

これだって昨日、今日建てたわけでないから耐用年数があるのでね、いずれ故障なり改築をしなかったりならん部分について、何も検討してなかったら、どっからお金持ってくるんですか。

それでね、今、学校の話だけど、1年後にやるという計画なんだけど、何でも1年って出てくるんですか、これ。2年や3年後でも計画変更ってできないんですか、これ。

町長の公約だから1年後にやるんだって気持ちは分かるよ。だけど今、財政シミュレーションから見たらね、マイナスなってく。その事実が前にあってね、それでも進めていくのか。

1番大事なのは町民から意見を聞いてね、それをないがしろにしてね、いや、後に戻すなんてね、町民にどう理解させるんですか。そういう場所を作るんですか、町長。

野々村町長

私の公約だからどうのこうのっていうのは一向に考えていただかなくて結構でございます。

1年という話ではなくて、今後そういう情勢を見定めてからでも遅くはないかということで、少しでも早ければいいなという気で、それぞれ今までの心配事がまだまだこの先あるという話をしている。だから、今後はきちんと積み重ねていった中でやっていくということで、先ほども言いましたけど諦めてはいない。

ただ、やっぱりそこっていうのは町の財政とやっぱりリンクしていくわけですから、そこがもっと多世代もコンパクトになるかも分かりませんし、どういう形になるか分からないというところがあって、まずはこの大形、1番大きな柱である大型のこの学校の問題っていうのは、今言ったみたいにあれもこれもということの要望や、私ら自体では教育委員会さんに、そちら全てお任せしてるんで、その要望まで全部が聞けないけども、1番今回縮小する中で言ってるのは、子供たちにやっぱり、私も同じように、委員会の中でもしかこれを縮小できるんだったら子供たちに不便のかからないような形で考えてみてくれということをお話させていただいたつもりですから、気持ちは同じだと思ってます。

ただ、今度こういうふうに大きく変わりましたから、やっぱり集めたときの意見も同じように、やっぱり皆さんに説明していく、やっぱりそこは必要なことだと思ってます。

これは教育委員会、また、多世代も我々町として住民の皆さんに、こういうことでしばらくの間、事業が先延びになるということ自体も含め。ただ一つ、大改修でもよかったんじゃないのっていう話も先ほど植村委員からもお話があったけど、中学校のやっぱり、そこっていうのは土石流の対象区域で危険場所であるということの指定をされている以上は、そこで大改修をして中学を維持するかっていう話だったんです。学校校舎の方ですね、そこはね。体育館は外れてるんですけども、校舎は、だから、そのときも考えたら、そこに10数億掛けて個々に直してもいいんだけど、一つっていうこともありうるねっていうことが、もっと早い段階でとんとんと進めば事早かったんでしょうけど、ここまで、年間、多分本当に春先に上がった後にまた上がって、この1年の中で、最終的には1.5まで上がったというこの記録は多分建設史上も今までにないんじゃないかっていうぐらい、高騰している。

農家の皆さん方が分かれば1番よく分かるかもしれないけど、1馬力何万円という単価が今や倍になっても買えないというのと同じ話なんですね。それって補助金がこんだけだって定まってるのに、その増えた分が全部埋まるかって言ったらそういうわけじゃないから結局台数が入ってこないか、何か台数で処理するしかないという状態だったんじゃないかという気がします。

どっちにしても、この問題については皆さんに説明する、やっぱり我々としても、きちんと義務がございまして、理解していただきながら、先ほどからも言ってるとおり、風呂に関しては、本当はもう耐震設計でもないんで、常時住むような、常時寝てるようなそういう施設には使えないけども、時と場合によって状況には休止して、危ないときは使ってもらわないようにしなきゃなんないですけども、しばらくの間、この次のステップに上がるっていう判断がつくまでの間は、あそこが使えないという形じゃなくて、ちゃんと維持して使えるような形で御不便をかけないような状態を維持をしていくと先ほども申し上げたとおり、その分には、今これから担当部署ともこういう話をしながらずっと詰めていければと思っていますし、もう既にこの部分は先に変えとかんきゃならないって、今年度中に

も改修をしてる部分もあります、ボイラーの一部では。

やっぱり持続的に今あるもの自体を使いながら安全運転を何とかしていききたいというのが私の考えでもございますので、危険なところに首突っ込んでいて後でやめたという話よりは、今の段階で、やっぱり英断を持って、皆さんと協議しながら、怒られてでも、それを理解してもらって進めていくというのが、この住民がどんどん減っていく中で、何を求めているかということを聞き集めて実行することにしたし、学校もいろんな意見を父兄の方々、子供たちから集めて、そういう要望があったんだけど、最低限不便のかけない生活ができる、過ごしやすい学校ということを目指して、この今のプランを立ててもらってると私は思ってますので、きちんとその部分を説明していければと思ってます。

高橋秀之委員長

ほかにありませんか。

深澤委員

さっき言った、今の計画は1年後って計画だけど、2年経過したらどう変わるんですか。町等、そういう決断はできないっちゃうこと。

野々村町長

今、基本設計、私もこの中身はあんまりよく分かんないですけど、基本設計を契約して、基本設計を継続してて、断ち切れると一からまた基本設計から始まるという先ほど言った今まで何ぼかかったのよってという意見の中の一つになるという、そこをどのようにして安くつないでいながら調査をするか、基本設計の道筋を立てるかっていうこと自体も含めて、今後、協議をしていかなければならないと思ってます。

1番安くなる。結局その設計が生きるように、今まで掛けてきたお金がと私は考えてますので、1年なのか2年なのかっていうのは、この前後、どういうふうになるのか分かりませんけど。

植村委員

今の基本設計、恐らく3億幾らですよ。違ったかい。2億だったかい。それに今これ、大きく設計変更かけて出すってことに、改めてやらなきゃならないと思うんですけど、変更に係る経費というのはどのぐらい見てるの、

伊藤教育長

お答えいたします。

今実施設計をやってて、今積み直しということで今継続で今回の数字とかも出していたんだんですけど、この後、詳細設計もまた積み直しっていう形になって1年今延びるという先ほど説明させていただきましたけれども、大体、延びると3千万ぐらい追加で掛かるっていう形になります。

ただ、これまたやり直すとなると、また2億数千万とかって掛かっていくってことで、できれば継続でやらさしていただいて、工事の方も遅れば遅れるだけ、きっと先ほど植村委員もおっしゃられたとおり、下がっていく可能性の方が少ないので、できるだけ期間を置かないでやるためには1年ちょっと先送りさせてもらうんですけども、実績を積み直して1年遅らせて、工事1年遅れで完成っていう形が1番経費的には今、現状でベストではないかもしれないんですけどもベターな選択かなということで今、お願いしている

という形になってます。

深澤委員

多世代交流施設の風呂の話なんだけど、ボイラーが壊れて長期間休業する場合の対応策ちゅうのはどういうふうに考えてるんですか。

野々村町長

これ、特にまだ担当部署と打合せしないんで私が勝手に話しするような話ではないですけど、なるべくそういうこと、先ほども話した。

(深澤委員「なるべくじゃダメなんだ町長」の声あり)

きちんと御迷惑のかからないように、もし、そこでどうにも部品、今よくある話で、何しろ部品が入ってこないって言って延ばされる理由の一つとして、そういうことが起きれば対応策は何かを考えなきゃならないということだけは重々胸にきちんと打ち込んでおきますので。

高橋秀之委員長

よろしいですか。

ほかにありませんか。

齋賀委員

今、変更後の概算事業費が5.8億ということで出たんですけどね、そのほかに、この教員住宅には今3億掛けてるけど大体どのぐらいかかっていくんですか。

古草教育次長

現在進んでおります教職員住宅の建設工事につきましては既に契約済みでございまして、本年7月に完成の予定でございますので、事業費の動きはございません。以上です。

齋賀委員

前にそれ終わったら今度校長、教頭宅を造るという話もあったのではなかったかと思っただけで確認したところだったんですけど。

それとあと、建物ができる、その中に入れるこの学校の中の備品には一体どのぐらいの予算付けをしてるんですか。

古草教育次長

まず、学校備品の関係につきましては現在契約しております備品の業者の方と何が使えて何が使えないのか、それから新しい学校には何が必要なのかというのを来年1年間かけてさらに検討することになっておりますので、現在、幾らぐらい掛かるかという想定は出ておりません。

伊藤教育長

校長住宅、教頭住宅につきましては、学校が建て終わった後についてということで以前お話をしたかと思うんですけども、なかなか今回の財政シミュレーション等でもございまして、大型な出費っていうのはなかなか難しい。当初はやはり建て直そうかというようなまだ構想段階だったんですけども、建て直そうかっていうような話もしておりましたけれども、今回のシミュレーション等を勘案し、大きな出費はちょっと控えなきゃいけないというような町全体の中で今の住宅を買い改修させてもらって、そこに入ってもらえるようなことも考えていかなくはいけないということで今のところ考えているところです。まだ具

体的にどうしようというような段階の話ではないんですけれども、改修をして、今の住宅を有効にまた使っていければというようなことも検討していく必要が今後出てくるといことで委員会としては押さえているといことでございます。よろしくお願いします。

齋賀委員

先ほど、ほかの委員からもあったんですけども、給食センターもやっぱり補修していかないとなくなかったと思うんですけどね、それが幾らぐらい、それはまだ見てないですか。とにかく現状で使えるよといことで。

伊藤教育長。

給食センターにつきましては、今回、計画の見直しで立て直さないという形になりましたので、もともと建物についてはまだ十分機能を果たしている状況ですので、ただ、中の厨房機器については、もう入れてから15年ほどたちますので、以前ちょっと計画的にこの改修、機器の入替えの期計画を作っているものがございまして、それに基づいて今後は機器の入替えをしていかななくてはいけないといことはあります。なので、今計画立てたものがありますけれども、また今実際に今度機器の状態を勘案しながら、緊急に替えていかななくてはいけないものは優先順位を付けて機器の更新をしていくといような形にはなっていくかと思います。

齋賀委員。

もう一つはね、あと、国から補助金、交付金受ける話もしてたんですけども、具体的に、この58億だったら国の交付金はどういった種類のものをどのぐらい借りられるという想定をしてるんですか。

古草教育次長

国からの交付金の算定につきましては、現在全体の工事費が出た段階で、まだ年度の割合が示されておりませんので、それが出てこないと単年ごとの補助申請になりますので、幾らの補助になるかといのはまだつかめない状況です。

現在、設計業者の方に年度の割合、それから単年の工事費の方の資料の作成を指示しているところでございます。

また、現在想定しているのは増築等に係る負担金工事の交付金、校舎分、それから屋内体育館分の事業、それから小学校の校舎の改築に係る部分、それから今使えるかと思っているのがグラウンドの整備にかかる部分と太陽光発電に係る部分、それぞれメニューが別ですので、それぞれを組合せながら補助金の申請をしようと考えているところでございます。以上です。

齋賀委員

分かりました。

ここで今58億の中で、それで交付金が幾ら出るかまだつかめないといことは、町民には説明できないと思うんですよ。だから、これ学校58億掛かりますよ、国の交付金は幾らありますって、それで残りを町債にして地方交付税が何ぼ入ってくる、それで町民1人当たりどのぐらい負担なるかっていう、そこまで説明してあげないと、町民はなかなか納得できないと思うんですけども、これ最大、この限度額っていうのは今58億って出てるけども、話を進めていくうちに財政シミュレーションして、58億と出てるけども、も

し足りなかったら、入札できなかったら60億まで範囲を広げるとか、そういうことは考えてないんですか。限度はどのぐらいだと思いますか。

野々村町長

私からお答えさせていただきますけど、なかなかその想定は難しいかなと思ってます。

ただ、この基本ベースにのっとして、ある程度何とかやってこうという、60億を超えない程度できちっと収まれば、本当に先ほどから言っているとおり、これが積算で出てきたときの額がやっぱり出てこないと本当の額ではないんで、平米数で。逆に言えば、その積算によって安くなる可能性もあるにしても、平米数だけで掛け算してるだけですから、どっちにしても安くなる方は余り見られないけど、高くなるときの上限幅っていうのはどうか、どういう形かっていうのはあって、そこ以上は下カットするのかって、さっきの話じゃないけど、やっぱそういうわけにもいかんでしょうっていうところはあります。

ただ、やっぱりこの上限として前回の1番最初のシミュレーションでも上限は60億ぐらいだろうなとかって大体気持ち的にはおったんだけど、そんなところではなくて70何億とかってうわさで聞いた話になってきたら、本当に平米数で掛けたら今試算したとおり77億何ぼって出たということですから、それはもうまさにそのぐらいのやっぱり掛け率1.5を掛けてくださいということが国から指示があったというだけの話だけあって、そんだけ上がったんだなっていうのをやっぱり認識しなきゃなかったんだろということだと私自身も思いますから、それが今回、この後はないとは言えない話です。今どんな国際情勢もどんな状況か分かりませんが、その時点もやっぱり皆さんで知恵を絞って子供たちがやっぱり最後、先ほど言ったけども、子供たちに不便をかけない、やっぱりそこができて、やっぱり教育の場がちゃんと安定してできるということの要素だけは汲み取ってあげなければならないなっていう、そういう気持ちではありますけども、私がしゃべることじゃなくて、委員会、皆さんが今までずっと積立ててきてくれたことで、私らはそれにとって何ぼ予算を付けるかという審議をするだけですから、その辺を加味して今回もこういう形で、取りあえず皆さんが心配してくれた武道場についても何しても、それぞれが使える場所とか、使える状態とかっていうのは、これから人数が減っていく中では、このぐらいで大丈夫でしょうということで、そんなに不安もない、使用頻度としてはそういうことでしょうということだから、そういうことで上げてきてくれたんだと私自身は思ってますので、これから皆さんに説明するのはどうしてこう減ったかっていうこと自体は、先ほども怒られましたけど、物価高騰の一言では済まんぞって言うけど、実際問題、皆さんに分かりやすいのは物価高騰の一言が一番分かりやすく、お金配ったときも物価高騰一言ですから、何上がったっていう説明、国からもないんですから、正式に使ってくれという話だと同じで、皆さんに説明をそこが一番分かりやすく、やっぱりない袖は振れない、やっぱりその中で最大限、子供たちに不便をかけない、やっぱり今までの学校より悪くなったねなんていう話ではない、やっぱりそういう施設であってほしいなっていう気は私自身はそう思ってますけど。

齋賀委員

隣の中頓別がね、46億で計画してたけども全然業者が付かなくて、最終的には59億近くになった。だからそれを心配して聞いたところなんですけども、1年遅れたことによ

って小学校、中学校、教員の免許を持ってる先生がなかなか当初は難しい、猶予があるとか言ってたんですけども、そっちの方も併せて一緒に探していかないと、せっかく1年間時間をもらったんだったら検討してほしいなということが2点目です。

最後にもう一つは今幌延の町民にね、学校のネーミングを募集してますよね。一体どういうふうになってんだって心配してる町民いるんだよね。

せっかく出したのに何も言ってこねえなって。もう忘れられて、学校どうなってんだっていうこともあったんで今ちょっとついでに聞きます。

伊藤教育長。

まず、学校の名前の関係につきましては今集計終わりました、開校準備委員会の方でいろいろと協議、検討し、候補を絞ったような状況になってます。

この後、結果のお知らせ等をしていければと思っております、その前に教育委員会の方でちょっとお話をさせて、まだちょっとお話しできてないので、手順を追って、町民の皆さんにもお知らせできればなというふうには考えているところです。

あと、教員の関係につきましては、今議員もおっしゃられましたけど、1年これ延びるということですが、義務教育学校の開校につきましては、今中学校に仮住まいと一緒に住みますので、開校については、やはり議員おっしゃれたとおり、準備が必要だろうということで、10年4月の義務教育学校スタート体制についてのスタートは10年4月で変更をかけないようなことで今、学校の先生方ともお話をさせていただいて、義務教育学校は仮住まいのところで体制をスタートするということで、スタートして1年半ちょっと中学校の方で義務教育学校の体制を整えてから新しい学校に引っ越して、正式に義務教育学校のオープンを新しい学校でできればということで、義務教育学校の体制のスタートは10年4月からということで考えているところです。よろしくお願いします。

高橋秀之委員長

ほかにありませんか。

一つ聞いていいですか。

これ太陽光発電だけ4千万ぐらい増えてるんですけど、このパネル数が増えてると思うんですが、これ何か理由あるんですか。

古草教育次長

太陽光パネルについては当初屋上の方に載せる関係で数の補正減がございましたけども、今回の野建てにすることで、下に降ろすことによって、ある程度の枚数は確保できるということで効率等々を考えて増やしておりますけども、ここについてもちょっと当初よりかなり上がってますので、現在設計会社の方に、そのスケールメリットですとか、そういったものについて資料を作成するよう指示しているところでございます。以上です。

佐藤委員

皆さん、こういう機会なんで植村委員からも深澤委員からも齋賀委員からも出たんで重複すると思いますけど、いずれにしても、町長言ったように、私もこれ、どんなもんになってこのまま突っ走ったら財政的にはえらいことになるなと、岩川副町長出してきた資料見ながら、大変なことになったなと思っていたんですが、今言ったようにいったん止まって見直すと、よくここで決断してくれたなと思ってます。

当初我々もずいぶん立派な学校できるなど、見て大丈夫なのかなと、あとのことも考えないで委員会で来たわけですから、我々もやはりそこでやってもう一度確認することもあったかなと思ってます。ただ、あとはね、町長、我々もそうですけど、地元に戻って、町民、町内会の皆さんもこういうことで、いったん止まって、縮小するところは縮小してやっていくということになったんでということで、これは説明していかなきゃならないと思ってますし、町長部局の方も、やはり町民に何らかの機会ある度にこれは説明していかないと、（聴取不能）それと多世代についてもいつやるんだと、こういう町民もあります。

いつなったら進むんだと、何年かかっているんだと。これも確かに私もこれ聞いてます。ですから今言ったように風呂がいつ壊れるかも分からん。それはそれできちっと定期点検して、業者呼んで悪いところは、これから今対応してるんだろーと思いますのでね、いずれにしても、いったん立ち止まって、今更過ぎたことあってもない、こうでもないって言ったってこれどうしようもないわけですから、我々も町民に対して丁寧な説明して、こういうふうに痛みも伴うけど、もう一度見直してやることになったということで説明していかなくちゃならんなと思っています。

町長の方からもそういう部局の方からも、事あるたびにその説明はしていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

高橋秀之委員長

なければ、これで終わらせていただいて。

ないようですので、大型建設事業に係る町執行部の考え方についての件は以上とします。調査事項は以上となります。

次に、3. その他ですが、皆さんから何かありませんか。

（「ありあません」の声あり）

ないようですので、以上で第2回まちづくり常任委員会を終了します。

ありがとうございました。

（11時17分 閉 会）

以上、相違ないことを証するため署名する。

委 員 長 高 橋 秀 之

以上、記録する。

事 務 局 長 岡 田 英 樹